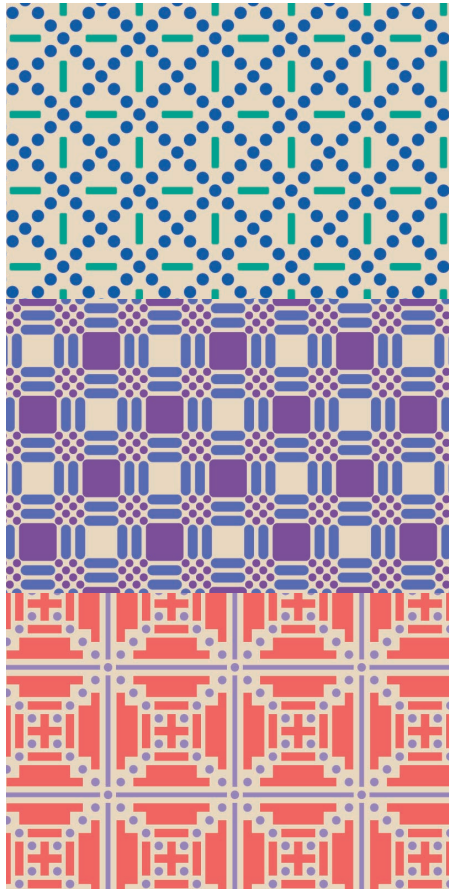
CD 06 247〜250

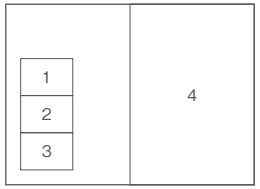
変わり格子【かわりこうし】

たくましい江戸庶民の生活がしのばれる「江戸小紋」

五色（いついろ）の　吹貫（ふきぬけ）古手屋の　見世に吊り　（五色の吹貫＝いろいろなボロのこと）

江戸も寛永の頃（1600年代）、古着を売る商売人が出て、以後、店を構えて成り立つほどになったそうです。俗に「古手屋」といいます。たしかに江戸は、今でいえばリサイクル都市であったことは、当時の経済事情を考えればごく当然のことでしょう。はたしてどれだけの人が流行を追えたでしょうか。「変わり格子」という、あの手この手の模様の数々を見ていると、たくましく生きていた江戸庶民の生活がしのばれます。





1 変わり斜格子
小さな格子が、視点を変えると大きくなり、花になり、正対になり、斜格子になります。

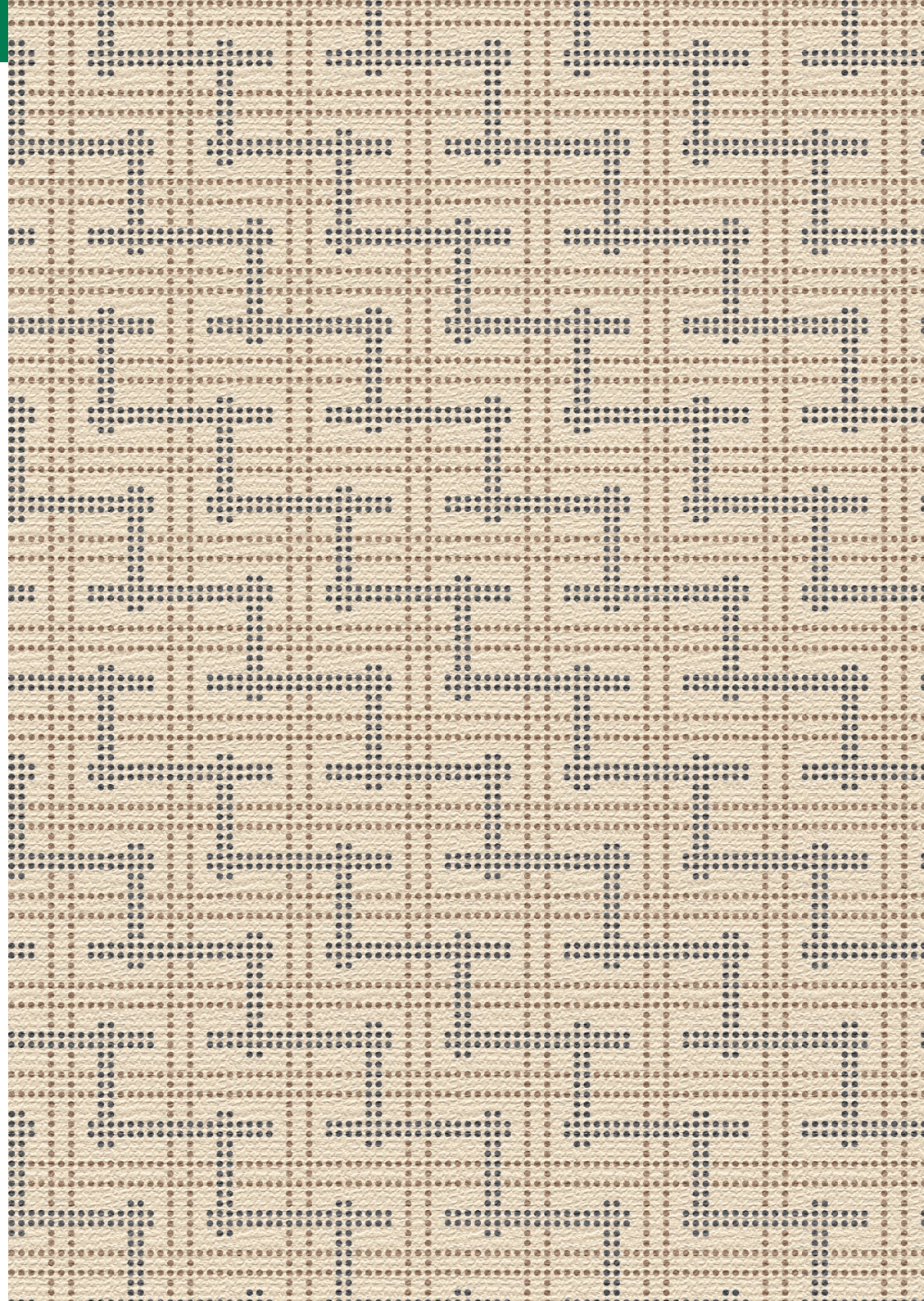
CD 06_247
青（あお）

2 変わり格子文様
縞の部分を小さくずらして、方形をネガとポジに変える、戯れに似た試みをしています。

CD 06_248
露草色（つゆくさいろ）

3 変わり格子
格子に中に「段」を入れ込んで、奇妙な格子になっています。

CD 06_249
丹色（にいろ）

4 変わり流れ格子
個性に富んでいて、汎用性の広い成熟した造形です。

CD 06_250
消炭色（けしずみいろ）